

Improvement Of Teaching Methods(3)

校長

進路指導と学習指導の改善

* 文部科学省の「平成 28 年度学校基本調査」によれば、平成 28 年 3 月の高校卒業生は、1,048,641 人、大学・短大に進学したものは 576,470(55%)、そのうち大学に進学したものは 518,859 人(49.5%)、専門学校に進学したものは 170,336 人(17.7%)でした。

* 現在、大学・短大、専門学校での中退・休学が問題になっています。大学・短大の数值は文部科学省の調査・報告があります。専門学校の数值に関しては過去の調査数や一部の数值しかないので、正確な数值はわかりませんが、大学・短大、専門学校を中退している学生は約 12 万人いるといわれています。上述の大学・短大、専門学校進学者数は 746,806 人でしたので、中退者の入学年度が異なりますので一概にいえませんが、入学する学生の凡そ 16%が退学していることとなります。また、大学・短大で休学している学生は、約 7 万人いるといわれています。

* 文部科学省の「学生の中途退学や休学等の状況について」によれば、中途退学、休学の最大の要因は経済的理由(20.4%)です。国立、公立、私立の大学を問わず 1 位です。専門学校のデータはないのですが、専門学校の校長等に聞くと、やはり経済的理由が一番と思うと答えていました。中途退学の場合、それに続くのが転学(14.95%)、学業不振(14.5%)、就職(13.4%)となっています。休学の場合、経済的理由に続くのは留学(15%)、病気・けが(14.6%)となっています。中途退学の理由である転学、就職も学力不足や学業生活に馴染めず、転学や就職にいたった場合が少なくないようです。

* 現在、国立大学では 8 割以上の学生が学力試験で入学、公立大学では 7 割以上が学力試験で入学してくるといわれています。その反面、私立大学では入学生の半分は学力試験を課さないで入学しています。このことが私立大学生の中退の大きな要因になっています。

* ベネッセの「第 2 回大学生の学習・生活実態調査」では、大学の授業についていけないと感じている学生は、一般・センター入試で入学したものは 35.3~39.9%(大学の偏差値等のランクによって異なる)、推薦・A0 入試で入学したものは 42.2~50.7%となっています。推薦・A0 入試で入学した学生の 4 割以上が授業についていけないと感じています。

* 平成 32 年度には大学入学希望者学力評価テストが導入されます。基本的には大学に進学する場合、このテストを受験しなくてはなりません。大学入学希望者学力評価テストは、国公立大学から見れば現行のセンター試験と同様な制度と捉え、その後、各大学独自の個別試験を課すこととなります。しかしながら、44%の大学が定員割れを起

している私立大学の場合、指定校推薦、公募推薦、AO入試など、学力試験を課さないで学生集めに奔走している大学では、どのような個別試験を課すのか注目されるところです。大学希望者学力評価テスト後に個別試験に学力試験を課せる大学と、課せない大学に分かれると思います。

*** 大学入学希望者学力評価テストが実施されると、いままで学生を青田買いして集めていた大学は、どのように学生を集めるのでしょうか。国公立大学でも独立法人化して毎年、予算にマイナスシーリングをかけられ人件費等が削減されている現状で、国公立大学の統合がわれています。定員割れしている私立大学は、いつまで基本財産等を取り崩して経営を維持できるのか、大学の淘汰が始まります。**

*** 今後の入試改革では、高校基礎学力テスト、大学入学希望者学力評価テストの導入で、思考力・判断力・表現力が問われる試験が課されると思います。いままでの知識を問う出題だけでなく、思考力・判断力・表現力を育むためにもアクティブ・ラーニング型の授業を取り入れる必要があります。特に、難関大学と称される大学の個別試験には、思考力・表現力が課せられると考えます。**

*** 単位制高校の場合、進路指導するにあたって1年次から自らの進む道を考えさせ、2年次・3年次の科目を選択させましょう。新校のカリキュラムは文転や理転しにくい編成になっています。1年次は漠然とした進路選択になると思いますので、幅広い進路選択ができるように助言・指導することです。この段階で進路選択の幅を狭めないような指導が必要になります。**

*** 安易な入学や不本意な入学をさせないためにも、3年次に「入れる大学」を探すのではなく、1年次・2年次に「入りたい大学」を探させることが大切です。**

*** よく2年の後期(2学期)は3年0学期といわれます。修学旅行が済んだら、勉強と部活動の両立を目指して受験モードに入らないと受験に間に合わないといわれます。受験教科の勉強は修学旅行が終わったら開始させましょう。この頃から勉強を始めると、最終的に推薦やAO入試で進学しても、モチベーションを高く維持でき入りたい大学に出願します。**

*** 推薦・AO入試で早くに合格しても、その後が決して楽ではないということを、生徒・保護者が理解することです。入学後に授業についていけるか、大学生活に馴染めるのか、志望している企業に就職できるか、早く進路決定できても学ぶ姿勢を持ち続け、大学で学ぶのに必要な基礎科目を自ら学習しておくことです。**

*** 主体性を持ち、多様な人々と学び、協働することのできる力を育成するために、アクティブ・ラーニングを手法とした授業改善を図る必要があります。**